

## 男女共同参画・働き方改革委員会企画 JOYFUL通信

## 女性整形外科医23年目のつぶやき

市立豊中病院整形外科医長

水野 直子

## 整形外科のイメージ

整形外科＝男性の仕事。このイメージは、「整形外科＝大工仕事＝男性向き」から来ていると思われる。確かにドリルやノミ、ハンマーを振りかざすことは少なくない(結構好き)。その一方、「整形外科＝お裁縫＝女性向き」ということも度々ある。関節鏡視下手術や、マイクロサージャリー等である。腱板を網の目状に修復するたびに、どう見てもお裁縫だわと思うし、ACLグラフトで使用するbaseball glove sutureは、フェルトでマスコットを作るのと同じ縫い方である。整形外科が扱うのは「運動器」と幅広いので、自分の特性に合わせて専門分野を選択できることを啓発していけば、女子学生にも興味を示してもらえないのだろうか。

## 整形外科医のライフワークバランス

私の周りでは高齢出産の成功率がなぜか高い。ある産科医は、「整形外科を選ぶ女性医師という時点で、かなりバイアスがかかっている。」と分析していた。私自身、40歳を越えてから妊娠した。手術は妊娠8カ月まで通常通り行っていたが、ほとんどの肩の手術は、座ってできることに気づい

てしまった。高齢妊娠の副産物である。現在、未就学児2名の絶賛育児中であり、家の中には常にカオス、職場の方が落ち着けるのが現状である。幸い夫が自営で家事力があり、職場の理解もあるため、かなり恵まれた環境にある。

もちろん環境は人によって様々であり、ワンオペ育児で頑張っている後輩達もいる。自分一人で難しいと感じたら、家事代行サービス等を効率よく使うことも必要と考える。

ある大先輩は、ウン十年前、出産から数日後に急な外来診療を頼まれ、断れなかったという。そんな時代を思えば、現代の環境はかなり改善されているのではないだろうか。

## 男性医師の育児参加

男女参画となると、男性にも目を向ける必要がある。私の周りには、育児中の男性整形外科医が少なくない。同僚Aは、早朝の掃除機がけから夜のアイロンがけまで、家事参加に余念がない。同僚Bは、食べ盛り三兄弟ためのご飯作りはお手の物のようだ。同僚Cは、夜は極力早く帰宅して育児参加し、毎朝始発で出勤して、始業前の時間を有効活用している。後輩女性医師Dの

夫は医師ではないが、彼女の出産に合わせて育休を取得し、夜中の授乳まで交代で手伝ってくれるという(これは神!)。男性の育休取得に関しては、海外では当たり前で、大学の同級生と結婚したオーストリア人医師は、子どもの日本語教育のために、1年間育休をとって日本に滞在していた。

仕事と育児を両立させるには、配偶者の助けが必要であることは明らかである。そうすると配偶者選びは、女性医師にとって今後のアクティビティを左右する重要なポイントであることがわかる。また男性医師にも、育休取得や育児参加がしやすい環境を、若い世代が声を上げ、是非ともつくりあげていって欲しいものである。

拙コラムをうっかり目にしてしまった全国の所属長の先生方、何とぞご高配の程よろしくお願い申し上げます!

